近世の日本 | 江戸幕府の成立と東アジア

1 単元の概要

江戸幕府は大名を統制するとともに、領内の政治に責任をおわせました。さらに、幕府は身分制度を確立させ、人々は、そのきびしい統制の中で生活していきました。幕府による「鎖国」政策には、キリスト教の禁止などの宗教の統制、外交関係と情報の統制、大名統制といういくつかの側面がありました。このようにして、江戸時代は大きな戦乱のない安定した時代となりました。

「鎖国」政策下において江戸幕府と隣接地域との関係は、長崎を窓口にオランダ・中国と、対馬藩を窓口に朝鮮と、薩摩藩を窓口に琉球王国と、松前藩を通して蝦夷地とそれぞれ交流がありました。

この単元では、主に江戸幕府の成立と大名統制、「鎖国」政策と「鎖国」下の対外関係などについて、博物館の資料を活用し、具体的に調べる学習を通して、江戸幕府の政治の特色をとらえ、260年間もの長い間、幕府と藩による支配が確立した理由について考えていきましょう。

2 学習のねらいと手だて（※教育課程編成資料の指導計画を参照）

◉ 幕府の成立と大名統制、諸政策を通して江戸幕府の政治の特色について考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。

◉ 江戸幕府による大名の統制については、各藩の配置や武家諸法度等の資料を活用して、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付かせるようにする。

西国内海名所一覧

3 指導計画（総時数５時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　江戸幕府の成立と大名支配について調べ、江戸時代が長く続いた理由を考える。 ①　徳川家康、関が原の戦い ②　江戸幕府、江戸時代 ③　大名、藩、武家諸法度	**博物館での学習** ○　幕府の大名配置の意図に気付かせる。 ○　江戸幕府の支配のしくみから、260年余り支配が続いた理由に気付かせる。　◆　細川氏、小笠原氏、黒田氏関連の展示　◆　テーマ館通史イメージ映像	2時間
Ⅱ　鎖国までの歩みをまとめ、鎖国政策の様々な側面について理解する。 ①　朱印船貿易、島原・天草一揆 ②　鎖国	◆　文化の交流、外国の文化パネル ◆　「密貿易船討払いの図」 ◆　「小倉領藍島略図」	1時間
Ⅲ　隣接地域との関係について調べる。 ①　琉球と蝦夷地　②　朝鮮との国交回復	◆　輸入陶磁器（英国製、オランダ製陶磁器） ◆　「即非如一画像」	1時間
Ⅳ　中世から近世の時代の転換について考える。 ①　天皇・公家・大名・寺社に対する江戸幕府の政策とそのねらい	◆　テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」「江戸時代の北九州」パネル	1時間

4 学習展開例（２時間扱いのうち後半の１時間）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
江戸幕府が長く続いた理由を幕府の仕組みから考えてみよう		＜博物館での学習＞ 1時間
身近な地域の江戸時代の大名について調べよう。		
Ⅰ　小倉藩や福岡藩関連の展示を見て身近な地域にあった藩の大名について関心をもつ。	○　小倉藩や福岡藩に関連する展示を見て、身近な地域にも大名が配置されていたことに気付かせる。 ○　郷土の歴史に関心をもたせるために、小倉藩が、どの大名によって代々藩を統制してきたのかを調べさせる。	**◆細川忠興画像** **◆南蛮鐘** **◆小笠原忠真画像** **◆黒田長政知行宛行状** **◆国境石** **◆「国境石分布」パネル**
Ⅱ　「小倉城と城主」「小笠原氏」パネルや参勤交代関連資料をみて、幕府の大名統制について考える。	○　九州各地の譜代大名や外様大名の配置を基に、幕府の大名配置の意図に気付かせる。 ○　参勤交代を通して、藩への負担を余儀なくされたことや、その反面各地で発達したこと（街道の整備や宿場町の発達など）もあったことに気付かせる。	**◆「小倉城と城主」パネル** **◆「小笠原氏」パネル** **◆「江戸時代の北九州」パネル** **「松平美濃守」本陣掛札**
武士の生活について調べよう。		
Ⅰ　「小倉城下町の様子」の模型を見たり、展示解説を読んだりして、武士の生活や城下町の発達について調べる。	○　城を中心とした小倉城下町の住居配置や屋敷の大きさなどを比較することによって、武士の生活にも厳しい主従関係があったことなどに気付かせる。	**◆「小倉城下町の様子」模型** **◆「小倉城下」パネル** **◆「小倉城下町の様子」パネル** **◆豊前小倉図** **◆「城下町の形成」パネル**
Ⅱ　江戸時代は、なぜ長期安定政権が存続したのかまとめる。	○　強力かつ緻密な大名統制や江戸幕府の支配の仕組みが、幕府の長期存続につながった要因の一つであることに気付かせる。	

5　博物館での学習

江戸幕府が長く続いた理由を幕府の仕組みから考えてみよう

「江戸時代の北九州」の展示では、当時の北九州の特色や大名による統率の様子などについて紹介しています。

当時の北九州は、西部は福岡藩、東部は小倉藩という２つの大名の領地に分かれていました。小倉藩の細川氏・小笠原氏関連の資料や福岡藩の黒田氏関連の資料からは、大名の生活ぶりをしのぶことができます。また、江戸時代の貴重な文献資料や実物資料を展示するとともに大型模型を使ってこの時代の城下町の雰囲気を体感できるように工夫されています。

身近な地域の江戸時代の大名について調べよう。

「江戸時代の北九州」の展示から、身近な小倉や福岡にも、大名が配置されていたことを実感することができます。展示を見たり、展示パネルを読み解いたりしながら、江戸幕府が行った大名に対する統制政策の意図や江戸幕府の支配のしくみを考えていきます。幕藩体制を維持していくための政策が、身近な小倉藩でも行われていたことを調べることによって、江戸幕府の政策が全国に行き渡っていたということを実感することができます。

南蛮鐘

三階菱紋入り懸盤・椀一式

国境石

「松平美濃守」本陣関札

武士の生活について調べよう。

武士は城下町に住み、先祖代々の家がらや功績によって、領地や一定の米を与えられ、役職を分担しました。また、民衆を支配する身分として、名字（姓）を名のることや刀を差すこと（帯刀）などの特権を認められていました。一方で、特権は認められながらも住むところに制約があり、きびしい主従関係の下で生活が送られていました。ここでは、城下町の様子などを調べることによって、武士の特権と幕府による強力な支配の両面から視点をあてて考えていきます。

「小倉城下町の様子」ジオラマ

豊前小倉図　宝暦年間

ワークシート〈江戸幕府の成立と東アジア〉

1　身近な地域の大名について調べ、幕府の大名配置の意図や大名の統制について考えよう。

（1）　展示パネル「小倉城と城主」「小笠原氏」「筑前黒田氏」パネルを見て適切な言葉を書こう。

関が原合戦の年慶長5年（1600）には、（ ①細川忠興 ）が入国し、同７年には小倉城を大改築して本拠にしました。ついで、寛永９年（1632）には、（ ②小笠原忠真 ）が小倉城に入城しました。②は、（ ③徳川家康 ）のひ孫にあたり、九州唯一の（ ④譜代大名 ）として「九州探題」を自負していました。また、現在の北九州市は、小倉藩と（ ⑤福岡 ）藩にまたがっており、その藩境は、筑前国と（ ⑥豊前 ）国の国境線に重なります。

（2）　「江戸時代の北九州」展示入り口のパネルの文と（1）の内容からキーワードを２つ探し、江戸幕府が大名配置についてどのような工夫をしていたのか考えよう。

九州の玄関や幕府の要所には譜代大名を配置した。また、転封を行うなどして、効果的に大名統制を図った。

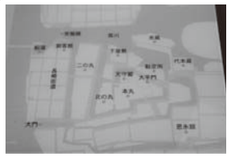
（3）　「江戸時代の北九州」の展示の中から武家諸法度に定められている大名の統制の内容に関連ある展示資料を探そう。また、その資料に関わりがある武家諸法度の内容を下から選び〇をつけよう。

展示資料名

武家諸法度

1. 大名は毎年４月中に江戸へ参勤すること。
2. 新しい城をつくってはいけない。石垣などがこわれたときは奉行所の指示をうけること。
3. 大名は、勝手に結婚してはいけない。
4. 服装は、分相応なものを着なければならない。（1635 年に出された「武家諸法度」の要約）

2　「小倉城下町の様子」模型や「小倉城下町」のパネルを見て、武士の住んでいた場所について調べよう。


「小倉城下町の様子」パネル

（1）　展示パネルを参考に適切な言葉を入れよう。

小倉の町は、元禄ころまでに整備が終わった。延享３年（1746）には、（ 二ノ丸 ）に家老屋敷が（ 三ノ丸 ）に上級家臣の屋敷が、そして、（ 西曲輪 ）や（ 東曲輪 ）には、武家屋敷や町屋が立ち並んだ。そして周囲には（ 寺院 ）が配された。このように城を中心として建設された町を（ 城下町 ）という。

（2）　上の図に本丸・家老屋敷・上級家臣の屋敷・武家屋敷の位置を書きこみ、屋敷の配置から気付いたことや考えたことを書こう。

海岸に近い場所に米蔵を置き、船からの積み出しをしやすいようにしている。また、二ノ丸や三ノ丸は、本丸を囲むように配置し、周辺に堀をめぐらすなど、城主を守る仕組みが図られている。

3　江戸時代が長期存続した理由を、調べたことを基に話し合おう。また、話し合ったことを裏面にまとめよう。

学校　２年　　組